

## 協業を土台とするUOSは コミュニティの成功例である

i Magazine (以下、i Mag) 2017年1月に、UOSの理事長が武藤さんから中村さんに交代しましたね。

**武藤** 私は2011年1月にUOS理事長に就任し、3期6年を務めました。この6年間に、日本IBMでは橋本孝之氏、マーティン・イエッター氏、ポール与那嶺氏と3人の社長が登場し、製品やサービスもクラウドを軸に大きく変容した激動の時代でした。この時期にUOSの理事長として、IBMやビジネスパートナーの方々、そしてお客様と関わられたのはとても貴重な経験でした。

**中村** 武藤さんは、理事長就任時にどのような目標を掲げたのですか。

**武藤** 大きな目標として、まず会員300社を目指しました。おかげさまで2016年7月にこの数字をクリアし、現在の会員数は310社に達しています。数の拡大という点では、目標を達成できてうれしく思っています。IT分野の業界団体はいろいろありますが、UOSがはかと大きく異なるのは、それぞれの地域に深く根差しつつ、同時に全国の会員が相

互に交流し、案件に協力し合う「協業」の体制が確立されていることです。これはいろいろな団体を見てもほかに例がなく、コミュニティの1つの成功例だと考えています。

**中村** 「競合のなかに協業あり」は、UOSの基本理念ですからね。今はWebやメールの時代ですから、理論的にはバーチャルな空間で協業相手を見つけることもできるでしょう。しかし実際問題として、ほとんど知らない相手と協業するのは、不安もリスクもあります。UOSの場合は、日ごろの活動のなかでよく顔を合わせ、お互いをよく知り、信頼関係を築いている相手を協業パートナーとして選べる点に価値があります。

**武藤** 全国の協業委員会、および各支部の協業連絡会議が、仕組みとしてうまく機能していると思いますが、その土台は会員同士の濃密な人間関係で成り立っている部分が大いそうですね。

**中村** UOSは関東、中部、関西、九州、北海道の5支部で構成されており、各支部の個性が大きく異なっている点もユニークです。会員数が増えるとともに、販売会社、開発会社、パッケージベンダーなど事業形態の異なる会社が多く参加し、IBM iからオープン系、ホスト系と、対象にするプラットフォームも多彩です。IBMに限らずいろいろなメーカー製品を取り扱う会社も多く、その意味では多様性に富んだコミュニティに成長しています。関東、関西、中部、九州の4支部がそれぞれ開催しているUOSフェア、各地区のカンファレンス、それに総会など活動も活発です。

## UOSのミッションは 協業と教育と情報共有

i Mag UOSのミッションは何だと考えていますか。

**武藤** 以前から言っているのですが、私の考えるUOSのイメージは、「町の電気屋さん」の集合です。大手ではないけれど常にお客様のそばにいて、必要な製品を揃えたり、修理したり、気軽に相談に乗ったりする。お客様の生活基盤に寄り添って活動しているイメージです。

それを前提にUOSのミッションを考えるなら、まず先

## IBM市場を牽引する新たなUOS像を目指して

協業・教育・情報共有を軸にした活発なコミュニティ活動を展開

ほどお話ししたように会員同士の協業、それに教育と情報共有があります。教育については新人教育や技術研修に加え、高齢技術者を有用な人材としてもっと活用することを狙いにした啓蒙教育などがあります。技術者不足が叫ばれる一方で、経験を積んだ高齢技術者に活躍の場がない現状を解決する試みとして、とても好評です。それに最新のITトレンドやIBM情報を会員同士で共有すること。さらにIBMへビジネスパートナーの声を届けることも重要です。

**中村** IBMとUOSの関係も変化していますからね。設立当初のUOSは、「IBMのお客様向けソフトウェア開発の下請け企業群」という考え方でした。しかし現在は、「第一義にIBMがあるのではなく、会員ビジネスが活性化することで、IBMマーケットのビジネス活性化に寄与できる」という考え方に変わっています。

**武藤** そうですね。私が理事長に就任して以降、重視してきたのもその点です。我々がIBMの製品やサービスを積極的に活用することで、我々のビジネスが活性化すると同時に、IBMにとってのビジネスチャンスも拡大する、と考えてきました。そのためにIBMが今、どのようなコンセプトでビジネスを推進し、その製品やサービスにはどのような特徴があるかといった情報をできるだけ多くのUOS会員に届けようと努力してきました。

## UOSでは 「非日常が日常を豊かにする」

**中村** UOSは、私にとっては「非日常の空間」です。ソフトウェアベンダーとして競合する会社が一堂に会して、しばし日常の業務から離れていろいろと情報や意見を交換するわけですからね。UOSに参加することで、日々の仕事に追われているとなかなか考えられない問題・課題、急いで解決する必要はないけれど、とても重要なテーマをいつも思い出させてもらえます。

**武藤** それには同感です。会員の方々と会話するなかで、解決策を見つけたり、安心感を得られたりできますね。

**中村** だからUOSに関する私のイメージは、「非日常が日



常を豊かにする」ですね。経営者同士で課題を共有したり、悩みを相談できるので、UOSは私にとって「安全弁」の役割も果たしてくれています。

**武藤** 私は九州支部の出身ですが、今回、巨大マーケットを背景に最も多くの会員を擁する関東支部出身の中村さんが理事長になったことで、さらにUOSを新しい領域へリードしてほしいと思っています。またIBM iが大好きな私としては、IBM i市場で活躍するベンダーの経営者である中村さんにIBM iのよさをUOS内外に伝える旗振り役もお願いしたいですね。

**中村** 理事長という立場で何ができるか、今、模索しているところです。UOSは今年で35周年を迎えます。長い歴史のなかで培われてきたコミュニティの強さを継承しつつ、一方で会員の変化や多様性に応じて変えねばならない点もあるはずです。まずは関東以外の4つの支部と密接にコミュニケーションし、地域を含めたUOS全体への理解を深めていこうと考えています。また新しい会員とベテラン会員との交流を図っていく必要もあるでしょう。やるいろいろなとありそうです。いずれにしても、私が会員として感じてきたUOSのよさを、できるだけ多くの方々に広めていければと願っています。①

